



会 報

栃木県中学校長会

発行日昭和三十八年一月十五日

校長会の動き

- 九、四 小林県教育長渡欧米壮行会
小学校長会と合同して会長、副会長
代表して行い、餞別を贈る。
- 九、二一 田村県議社行会を会長、副
会長にて行い、餞別を贈る。なお教育
問題について重点的に懇談した。
- 九、二九 県教育長、次長、各課長と
の懇談会。
- 小学校長会と合同して会長、副会長
と義務教育諸問題について話し合い
要望した。
- 一〇、一 市町村教育長(代表十二名)
と小学校長会代表(十二名)と三十八
年度の義務教育問題について討議懇
談した。
- 一〇、二九 全日本中学校長会福島大会
参加。
- 一〇、三〇 全日本中学校長会福島大会
参加。
- 一一、八 県議会、県教育委員会、知
事部局に請願・陳情した。
- 市町村教育長と懇談討議した結果三
十八年度の義務教育の要望事項も決
定したので、二回程小中学校から陳情

請願の文案作成委員会をもち陳情書
を作成した。

一一、九 知事

総務部長前日
不在のため副
会長にて委し
く陳情した。

一一、一五 全日

中沢畑会長、
田島柿沼部長
来県。

山から来た大きな石に
みんなで
雨ニモマケズと刻んだ
風ニモマケズ丈夫な体をもつことは
その内に深い人間愛の魂が
生きているからだ
しかし山から来た大きな石は
門の傍で永遠にだまつている。

一一、四 幹事

本日より藤原
町に於て開催
される全国教
育長第一部会
(基準法、研究
部会、部会長
小林教育長)
に黒田会長、
長野副会長、
五名で陳情し
た。基準法に
ついて。

かぎりなき理想を求め
なし得るの日を信じて
火にも燃えず水にも消えぬ人間の
真実のものを彫り出したい。

会長 黒田 邦博

会において左
記事項の確認、話し合いをもった。
一 中学校長会の十五年の歩み(沿革

史的なもの)を作っておくことが
必要である。

2 関プロ校長会に本県より提出する
議題「中学校に優秀なる人材を確
保する方策如何」が、関プロより
全中四国大会に提出する議題に取
り上げられたので、各都市より委
員をあげて研究することとする。

3 小中学校長会慶弔
規定各都市とも賛
成(今年度は、今
迄に納入している
処は五百円、未納
の学校は千円、一
月一日より発足す
る予定)

4 高校入試につき検
討する必要がある
5 本県中学校会の機
構について検討す
る必要はないか研
究しておくこと。

6 栃木県中学校修学
旅行会について黒
田会長より報告が
あった。

一一、七 小中校
を代表して大関、
長野両副会長が宇
都宮出身の県議宅
(七人)を訪問、請

願の件強力に推進して戴く様依頼し
た。
(庶務部長 大島)

義務教育の充実に関する要望

記

- 一、小・中学校の一年級児童・生徒数引
下げに關する要望
今後、児童・生徒数の減のすう勢にか
んがみ、一学級編成の児童・生徒数を更
に引下げられるよう努力せられたい。
- 二、小・中学校の教職員定数に關する要望
1 教員定数を増加すること。
(1) 一学級当り教員配当基準を高めら
れた。
更に小規模学校に対する配当を考
慮せられたい。
(2) 校長を教員配当基準の枠外とされたい
(3) 特定教科を担当する教員を確保せ
られたい。
(4) 補助教員(産休・内地留学等)を
増加せられたい。
- 2 事務職員を必置すること。
3 中学校に生徒指導専任教員を設置す
ること。
- 4 養護教諭・司書教諭を大中に増加す
ること。
(1) 養護教諭配当基準を改善されたい
(2) 司書教諭配当の基準を設置されたい
特殊学級に關する要望
1 特殊学級の計画設置を促進されたい
2 設置希望校には教員を配当されたい
3 専任指導主事を設置されたい。
四、教職員の確保優遇に關する要望
1 初任給を引上げられたい。
2 優秀教員の確保優遇に積極策を講ぜ
られたい。
3 養護教諭・司書教諭の養成方法を講
ぜられたい。
五、旅費増額に關する要望
1 一人当り平均年額七、〇〇〇円以上
とせられたい。
2 赴任旅費および進路指導旅費は別途
に計上せられたい。
六、教職員の資質向上に關する要望
1 現職教育の強化を図られたい。
2 教育研究補助費を大中に増額し、研
究団体等に積極的な助成をせられたい。

各郡市校長会の情况

河内郡

本郡校長会は小中学校長会一体となり義務教育を一貫しての振興発展を期して会の組織運営に当っている点が特長とも見られる。特に研修については学校経営の実際、中でも学校管理面を重点的に取りあげて努力している。

中河内二校、河内二校は既に建築終了目下内部設備の充実を努力している。校長会の運営は各地区交互に巡回、施設運営の研究と地域に於ける教育関係者と懇談し学校への協力を要望し、一列前進をねがっている。年一回県外視察を実施して校長としての見識を広めることに努めている。

郡内校長は極めて円満であり、互いに協力し融和は満点である。郡内芸術祭、音楽祭も盛況に終了し、その評価と反省について明年度の資料としてまとめつつある。

上都賀地区

上都賀地区には中学校三十七校、会員三十七名、うち小中兼務校長が八名いる。本地区中学校長会の誇りは、全員若々しく、常に和気あいあいとして明るく、ムードに満たされていることである。会長は日光中北山澄、副会長は北犬飼中佐藤才吉、今市中山形次郎の二人である。会員はこの三人を中心に固く結び、もりたて、弱卒はいない。

本会は定例会と幹事会とを隔月に開催しているが、定例会には、研究意欲の旺盛なところが見られる。即ち、毎回のように「現場校長の悩み」の具体的な問題がとりあげられ、熱心に討論される。県外視察は年一回計画され、本年は十一月下旬二泊三日でバスにより上諏訪、松本、長野市方面の教育視察を無事終了した。

本地区の小中学校長会は仲がよい。小中合同の校長、教頭研修会は年一回開催、十月に山田栄氏を招いて講演会を開いた。また十二月上旬小中合同幹事会を開き、年中行事の一つである小中校長合同新年懇親会を一月中旬鬼怒川温泉で開くことを決めた。本年度県教委指定研究学校五(統計教育一、教科指導一、寄生虫駆除一、保健体育一、技術家庭一)以上でプロファイルの一端を紹介したが、もう一つ本地区の多士路々ぶりを付け加えたい。往年の陸上競技選手六人、マラソンランナー一、剣道有段者五、内七段教士一、六段教士一、柔道有段者四、籠球選手三、卓球選手二、サッカー選手二、テニス選手二、野球選手二、内奥伝修得者五、菊作り自稱名人六、内連八三、若石蒐集家五、内大家一、花菖園芸天才肌一、ピアノ最高師範一、文展級画家二、将棋初段格一、囲碁初段三、但し全員二段格。

芳賀地区

真岡市、芳賀郡の十九校を会員としている。義務教育の推進という立場では、常に郡市小学校長会と連絡提携して事業を進め、中等教育の面で郡市内四高校と中高連絡会議をもっている。

小山市

小山市校長会は、小学五、中学三、高校二の十人の校長で組織している。従って、中学校長会としての活動は、その中に含まれる事が多いが、特に中学校関係の問題については、その会の中部会又は随時の中学校長会を開いて連絡研究・協議等を行っている。

市の校長会は、毎月定例会を学校を順番に会場にして開き、その時には、その学校の授業参観と教師との懇談の時間を設けて、実際授業についての研究を進めている。

去る十月十九日には、地元選出の小池具義及び教育長、教育委員との教育懇談会を開いて、県に対する小・中校長会の陳情問題の説明と話し合いを行い大いに得るところがあった。

来る三月には、美田村と合併することが予定されているので、校長会としてもその時の在り方を研究しておかなければと考えている。

塩谷地区

九月六日、茨城県水海道中学のプログラム学習と下館中学校の理科施設設備視察、共に参考になった。

十月十五日、理科教育センターを会場にして研修をした。漆原所長さんからセンター並に全国的傾向を伺い、所員の皆様からそれぞれ分担に応じて三時間近い説明をお聞きし大いに洗脳された。

十一月十九日、全員船生中学校の統計教育公開発表会に参加した。本校がプログラム学習を取り組んで、学校内が一糸乱れない統制をとって研究を進めており、その公開発表より得たものは、統計を作る教育、統計による教育

事業の主なるものとしては、小中合同校長会があり、毎月二十日に午前中会議の長い間は午後を研修にあてている。去る十月には本田技術社長、本田宗一郎氏の「私の経営哲学」という講演をきいた。更に隔月十日に定例中学校長会をもち、本年は「教育課程の編成」と「校務分掌の組織運営」のテーマで研究会をつづけ県教委主事の指導をうけている。職場開拓、職場補導は職安と共催で六月中に実施した。

対県要求等の予算対策について九月三日小学校長会と共に郡市選出県議と懇談会をもち諒解を得たが、近月中更に各市町村において県議と個別懇談により陳情する手筈である。

下都賀郡

本会は会員十九名で毎月五日に幹事会十八日に定例会を開く、但し当日が日曜か水曜の場合は翌日となっている。幹事会には会長・副会長及び各市町村代表で構成し、栃木市・小山市代表にも連絡している。今迄の主たる行事は次の通りである。四月十六日 栃木市・小山市校長会と合同で、栃木地区記者倶楽部と教育懇談会を開く。四月十八日 午前中総会を開き役員改選午後下都賀地区小中学校長九七名、来賓三八名を迎え、歓送迎会を鯉保別館で開く。五月・六月定例会 年間研修計画、教育諸団体の研究、進路指導、諸表簿の研究等をする。七月十九日 教育団体特に日教組についての研究。校長の管理指導についての事例研究。八月十七日・十九日 県外優良校視察と

して、長野県佐久市立野沢中学校、上高地及乗鞍の夏季施設の研究。九月十八日 田村製作県会議員の欧米視察に出発の挨拶。教育諸団体並に教員定数に関する研究。藤岡二中安良岡正一校長の病氣見舞について。十月十八日 郡市中学校長と家庭裁判所高野支部長等と少年問題の研究。十一月十四日 全日本中学校長会表彰者館野晋平、石塚文、藤岡賢隆、大出実大門利男。学制九十周年記念文部大臣表彰永井好平。栃木県教育表彰早乙女源四郎校長の祝賀会を行う。十一月二十一日 国分中学校校長藤岡賢隆病氣休職となり、県調査課より永岡正一校長発令。十一月二十二日 国分中学校創立十五周年記念式。十二月三日 下都賀地区小中学校長会主催田村議員の欧米視察講演会並に歓迎パーティー。十二月十八日 教育諸団体の予算並びに年度末対策について。

栃木市

会員八名、研修面では下都賀郡の中学校長会及び本市の小中学校長会と共に、年度初めの計画に依って実施している。視察旅行及び毎月一回の例会は、必ず市の小学校長会と共に一回、小中間の連絡を密にしている。その他の面では本年は特に各校の教育環境の整備を第一の目標にし、各方面に働きかけ相当の成果をあげている。会員は僅かに八名であるが、全員うちそろって健康にめぐまれている中にも、去る十月の福島大会に於ては、十五年表彰の小栗校長、十年表彰の飯塚校長を出し、共々喜びにたえない。今後は引き続き来年度の教育予算の面で成果をあげるべく、会として全力を注ぎたい。

郡北地区

従来、那北では小中学校長会の組織の中にあって、中学校部会として中学校長会は活動してきた。義務教育の一環として小中学校間には共通問題も多いが、中学校には中学校独自の問題もかなり多いので、中学校長会独自の解決のために努力をしないと、中学校教育振興の上にも思わしくない点が反省されるので、昨年度より中学校長会を定期的に開催し、中学校独自の問題の解決につとめてきた。本年度は問題生徒の指導について新教育課程実施上の問題点について、校務分掌について研究を進めている一方、県校長会費の市町村支出の問題と、現職教育費の増額の問題について運動を進めている。後者は小学校長会と一体になった運動である。

二十五人の中学校長、多士路々しかも全くの融和のうちに積極的には運営されているので、将来の発展を大いに期待してほしい。

南那須地区

十月廿二・三日、郡の小中学校長研修旅行。紅葉はじめた奥秩父の長瀬・三峯神社を巡り、秩父市の大月ホテルで盛大に懇親会。同廿五日、荒川中で進路指導研究会を開催。次いで廿七日、絶好の運動日和に恵ま

れた鳥山会場・小川会場で、それぞれ小中・高教職員体育祭。童心にかえったり若き血をたぎらせたたりして、半日をたっぷりと満喫して懇親。廿九・卅日には、みちのくの福島大会において、小川中の川上、大山田中の石川の両君が、校長十年勤続で表彰を受けた。祝賀の前夜祭が、馬頭中の近藤君を加え、土湯の富士屋ホテルで盛大に行われたことを特記しておく。十月二日、仙台市で全国給食大会が、廿九日から、文部省東日本給食会が長野市において開かれ、それぞれ中学校を代表して萩原会長出席。特に、長野県における小学校九九%、中学校七〇%の普及率には驚歎。まことにうらやましい限りである。十一月十日、南那須一周、中学校駅伝大会。次いで、卅日には県の駅伝大会に参加。廿二日、小・中・高校共催で学制九十年記念式典において、大臣表彰を受けた鳥山小小野校長、鳥山高岡町校長、馬頭高木村高校の祝賀会を鳥山の松月楼において盛大に開催。翌廿三日からは、小学校長会と共に県議の荒井豊水氏、新井章一氏を歴訪して、義務教育の陳情と懇請。両氏より教育優先! 人造り! と明るい希望を託す。来る十二月六日には、生活指導を中心とした中・高連絡会と、冬休み対策、教育予算を議題とした定例会を開催の予定である。

本郡校長会の諸活動の内、今回は、研修活動について記します。なおこれは、安藤郡並びに佐野市小中学校長会合同で行っております。

○今年の主題学校経営の近代化
4月20日 県学校教育指導計画について協議。
5月21日 講話「近代学校経営のあり方」生徒指導上の問題点について協議。
6月19日 協賛。夏期休業中の職員生徒指導について協議。
7月13日 優良校視察 横浜老松中外出席。
9月13日 職員指導上の問題点について協議。
11月19日 講話「学校経営の近代化」新教育課程実施上の問題点について協議の予定。
12月18日 年度末反省。
1月21日 年度末反省。

中学校教育の諸問題

石原啓三

一、中学校の位置を確立せよ。
戦後の落し子中学校の位置も、遂年確立の一途をたどっていることは、まことよろこびに堪えない。

新しい中学校の位置性格については、随分混迷の道を歩いたものである。それだけ中学校教育を担当してきたものの苦勞は並大抵ではなかった。しかしながらこの中学校の位置の確立についてはなお一段の努力が必要である。

まずその第一は、高等小学校の改名であるという観念の払拭である。

どうも、義務教育という枠にはめられて、従来の高等小学校という観念が、今なお根深く支配していることである。そうしたことについて、われら中学校側にも一部の責任があると思う。

それは、義務教育という枠が、わざわざいしてか、すべてのことが、小学校にのみ結びついているということである。義務教育という枠からは、確かに小学校との結びつきを、緊密にしなければならぬが、教育の本質からはさむものではないが、教育の本質からはさむもの、高等学校との結びつきを、緊密にすべきである。

二、日本の教育はこれでよいか。

時代の進運に伴って、科学技術教育の振興は、現下喫緊の課題である。

しかし、科学技術は飽くまでも道具的性格を有するものである。優秀な道具の必要なことはいうまでもないが、優秀な人間であるとは錯覚されてはならない。現代日本教育の一大病弊は、ここにあり

ると思う。

科学技術教育と道徳教育とは今更ではないが、車の両輪のようなものである。道徳的背骨を培うことを忘れた片手落ちの教育は、徒らに世を混乱させるだけである。

教授と訓練との二つの足で一つの道を律動的に歩むのが、学校教育である。その歩む目標は只一つ道徳的人格であることとは、教育永遠の哲理であろう。

三、国策と教育の関係を反省せよ。
現代はまさに世界をあげて教育競争時代である。アメリカを見よ、ソ連を見よ、いずれも教育の力に頼って、国連進展の画策に狂奔しているのである。一人わが国だけが、国策にソッポを向いていてよいものであらうか。

「葉ものこりにて、ナマスを吹く」という言葉があるが、日本の現代教育はまさに、この例えの通りである。

戦争協力の教育にこりきつたこの感情が、未だに消え去らず、国策といえは、戦争につらなるものという病的錯覚に迷わされているのが、現代教師である。

教育の究極は、日本国家の発展に貢献するものでなければ意味を消失するものではなからうか。
世界における日本民族の使命を自覚し日本民族国家の繁栄を志向する日本教育の樹立が、今後の課題であらう。

四、教授法を改新せよ。
中学校教育のみならず、現代日本教育にはいくたの問題がある。

もともと能力の異った人間に、十把一からげの古い教育を十年一日どころではなく行っているのは、まさに、時代おくれである。元来教育は今後十年二十年の先を見通して、時代の先端を行くべき職場であらねばならない。しかるに、教育の

場だけが一人時代の進運に取り残されて、旧態依然の姿であってはならない。民主教育は、結局は個に徹する教育の樹立である。個に徹する教育とは一人一人の能力適応の教育ということに、外ならない。一人一人の能力を確かめ、それを自覚させ、その上に立つ教育を樹立することである。

そのためには、高度に教授を機械化し能力に応じた学習が、展開されるように配慮すべきであらう。シンクロ、フアツクス、テープコーダーの利用等、教授の近代化こそ現下喫緊の課題である。

五、専門的実力を培え。
ハッキリ目に見えるものは、スポーツである。優れた指導者を得れば、その学校のスポーツ活動は、活発化し、グン／＼その実績を現わした例は、ざらにある。

これらは指導の効果がはっきり目に見えるからであるが、その指導効果が直接目に見えない、あらゆる教科の学習においても、同じことが言えようである。

中学校教育の実績を高めるためには、何といっても、教師一人一人の専門的実力を養ってもらうより外に道はないのである。

そのためには研究の施設と機会をつくるよう配慮しなくてはならない。そのためには高等学校との結びつきをもっと緊密にすべきであらう。

栃木県産振便り

- 一、中産振三十七年度の重点目標
 - 1 専門委員会の組織の確立と運営の充実
 - 2 研究の奨励と助成
- 二、専門委員会の組織と事業計画
 - 1 職業専門委員会(委員長大島義正先生)

職業に関する研究会、実技講習会、県外視察等

2 進路指導専門委員会(委員長須佐清平先生)

3 技術専門委員会(委員長大橋信一先生)

4 家庭専門委員会(委員長石原啓三先生)

三、教材研究職場見学、調理講習会等

1 研究奨励校の指定(県内三校)

地区 学校名 研究題目 発表期日

北部 西那須野中学校 二月下旬

中部 日光東中学校(並行回転学習) 文書発表

南部 足利第二中学校 十二月月上旬

2 個人の研究助成(各支部一名)

編集後記

- 昭和三十八年の新春を迎え、おめでとごさいます。
- 本号は各郡市校長会の活動情況の一端を特集いたしました。それぞれ特色ある活動を寄せられた郡市会長さんの御協力を感謝いたします。
- 黒田会長からは、人間愛のにじんでいる珠玉の詩を頂きました。
- 石原校長寄稿の中学校教育の諸問題は来年四国高松大会に提案する協議題に つながるものです。(岩崎記)

発行人 会長 黒田 邦博

編集人 宇都宮市立一条中学校長 庶務部長 大島 義正

印刷所 三共印刷株式会社 (宇都宮市旭町二の三四三)